

病院から在宅へ。ベテラン看護師の挑戦



八木京子氏
株式会社アイナース
代表取締役(看護師)

○：東京通信病院などの医療現場で看護師として33年間勤めた八木さんが、06年5月在宅看護のアイナースをスタートさせて丸1年が過ぎた。スタッフは八木さんを含め小児看護・高齢者看護に精通した3人の看護師と非常勤のパート数人。ターミナル期の患者を中心に、医師との連携のもと訪問看護、付き添い看護、同行受診など、医療知識を備えた看護師の強みを活かしたサービスを行う。順天堂医院、虎の門病院、N T T東日本関東病院などの医療機関からの紹介に加え、ホームページやダイレクトメールを通じ利用者を募集している。口コミ紹介も増えている。

○：「ターミナル期の患者の。一度でいいから住み慣れた家に帰りたい」という希望を叶えたいという気持ちには家族にも、医師にもある。それをちゅうちょさせるのは、受け入れ態勢への不安。それを解消し、患者の願いを叶える手伝いがしたい」との思いが起業に踏み切らせた。自身も末期がんの夫を家に帰すことができなかった経験を持つ。「2人の子ともが一人前になるまでは」と病院勤務を続けながら、日本福祉大学の通信教育で医療・福祉マネジメントを専攻、社会福祉士の資格も取得した。

○：介護保険・医療保険を使わないサービス事業ということもあり、道のり

は決して平坦ではなかった。在宅看護のニーズが期待でき、交通の便のいい東京都千代田区神保町に事務所を構えホームページを開設、割高感を少しでもやわらげるため契約金制度ではなく、時間単価とし、土日加算・深夜加算すら取らない料金設定としたが、それでも利用者を集めることは容易ではなかった。1件1件診療所を訪問したが、手応えの無い日々が続き、途方にくれることも度々だった。そこで「自分が在宅看護の必要性を痛感した場所ならば」と急性期病院の医療相談室や在宅療養支援室に働きかけの中心を移したところ、徐々に紹介が来るようになった。今年3月、病棟看護師長に向け約800通の案内状を送ったことも効いた。「パンフレットや手紙はすべて息子の手作り。通信教育で勉強する合間を縫って、経理も担当してくれています」。家族のサポートも受けながら、慣れない経営と忙しい現場の両立に無我夢中で取り組んできた甲斐あって、事業も何とか軌道に乗り始めた。

○：「私たちの活動には、医師の皆さんや患者のご家族の理解と協力が絶対に必要です。人との出会いを大切にしたい、もっとアイナースのことを知ってほしい」と希望を語る。秋田県生まれ、東京都江東区在住。看護師、介護支援専門員。国立国際医療センター病院附属看護学校(現・国立看護大学校)、日本福祉大学福祉経済学部医療・福祉マネジメント学科卒。〒101-0005 東京都千代田区神田神保町2-23-2 スペースシア九段下3F ☎03-3233-4584 4583 03-3233-4584
✉info@inurse.co.jp ブログ「在宅看護アイナースの看護師社長奮闘記」(http://plaza.rakuten.co.jp/obachankangoshi/) も好評。